

携帯電話向けコンテンツのメディア・マジック（札幌市、里見英樹社長）はスマートフォン（スマホ）のアプリ製作で作業時間やコストを大幅に抑えることができる支援システムを開発する。名称は「アプリファクトリー」。目覚ましやスケジュール管理、着せ替えなどの10パターンのアプリのテンプレート（ひな型）を備える。来春の完成を目指す。

アプリはアプリケーションソフトウェアの略称。スマホ登場を契機に携帯電話用アプリが急増しており、

アプリ製作 手間改善

125.10.4(152)(37)

メディア・マジック 支援システム開発へ



作業時間・コスト 大幅圧縮

アプリファクトリーを使って製作した同社製のスマホ着せ替えアプリ

2012年度の経済産業省の「ものづくり中小企業・小規模事業者試作開発等支援補助金」に採択されており、国から1千万円の助成金が出るという。

開発するアプリファクトリーは、米アップルの「iPhone」(アイフォーン)とグーグルのアンドロイド端末の両方に対応しており、それぞれのアプリ開

発競争が加速している。同社によると、通常は1つのアプリの製作に数カ月程度かかるが、テンプレートを活用することで、ブログに1500万円を見込む。ラム開発などの手間や時間を省くことができる。7月に開発に着手した。同社はシステムの製作費用を1億5000万円を見込む。同社は現在約50人で、2013年3月期の売上高は5億4000万円。

発に使える。同社は社内で活用するほか、他社へのレンタルも検討している。来春の完成後も機能を拡張。来期中にはテンプレートを20〜30種類に増やし、汎用性を高めたい考えだ。メディア・マジックは1996年の設立。アニメーションや漫画のキャラクターが登場するゲームや着せ替えアプリなどを製作。従業員は現在約50人で、2013年3月期の売上高は5億4000万円。